おかげさまで 60 KGK ANNIVERSARY

検査技術研究所

# 創立60周年を迎えて

## 岡 賢治社長は語る

超音波探触子の国内専門メーカーとして知られる検査技術研究所（岡賢治社長）は今年4月で創立60周年という節目を迎えた。「より良い『超音波センサー』を供給するため、役員、社員が一丸となって努力する」を第一義とする同社のホームページ、カタログや会社案内には、ブルーを基調としてイルカの姿が描かれている。イルカといえば超音波を連想する。2001年に初代社長である金子重雄氏からバトンを引き継ぎ、この20年間、代表取締役社長を務めている岡社長に設立経緯から現況を語って頂いた。

当社は1961年4月、太陽物産が製造販売していた非破壊検査手法の一つである浸透探傷試験に使用する「浸透探傷剤」の製造部門が独立。川崎市川崎区塩浜に製造工場を建て、浸透探傷剤の製造販売と非破壊検査用機材の研究開発を目的に「検査技術研究所」として創業をスタートした。

同年、日本学術振興会（学振）がはじめた超音波探傷試験用標準試験片STB−Gの研究会および頒布事業に参画し現在、日本非破壊検査協会（JSNDI）が頒布している各種超音波探傷試験用標準試験片の試作開発や検定業務に従事していたことによる経験の積み重ねと、その間、この分野における第一線の研究者の方のご指導・激励の賜であると考えている。学振よりSTB−Gの検定を委託されてから、その業務上、必要不可欠である使用する「探触子」の修繕改良を手がけたことが探触子製造に関わる契機となった。

岡 賢治社長

### 「ちび太くん&ぺちゃ子さん」契機に飛躍

64年には垂直探触子、局部水浸探触子の製造を開始して以来、66年（標準型斜角探触子、各種探触子ケーブル、特殊変換接詮）、70年（ミニチュア型斜角探触子、二振動子型斜角探触子、各種探触子）、77年（点集束探触子）、84年（斜角探触子の不感帯ゼロを実現、鋼板の音速異方性チェック用横波垂直探触子、クリーピング波探触子）、86年（接触媒質自給式斜角探触子、接触媒質自給式厚さ計探触子）、87年（広帯域探触子）――等を製造開始、88年には世界に先駆けた最小探触子（ちび太くん&ぺちゃ子さん）の製造に成功した。

その後もSH波探触子、コンポジット探触子、アレイ探触子、ポリスチレン樹脂探触子、タイヤ探触子などの製造を行い現在に至っている。

とくに、ちび太くん&ぺちゃ子さんは、振動子材料が水晶からPZT、ニオブ酸鉛へと小さくて高性能になったことから小型化が可能になった。加えて、重工メーカーの要望によって、原子力発電所の探傷に活用されたため、需要が急拡大し当社のヒット商品になった。

### 徹底した短納期に実績

我が国の高度経済成長期に多くの製造業が設備投資を装置の投資に集中した結果、品質保証のツールとして超音波探傷器や探触子が導入されると共に、付加価値のある当社製品が顧客獲得に結びついた。こうした環境の中で現在では国内唯一の探触子メーカーとなり、探傷器メーカーなどからのOEM生産を行うなど、競合することなく良好な共存関係を築くことができた。

当社は、顧客に対し心がけているモットーがある。それは、徹底した短納期での納入。多品種でありかつ少数製造のためコストがかかったとしても、極端な話、注文の翌日に納入可能であるなら「今すぐほしい」という企業が多い。当社の小回りを生かした展開が現在の実績につながった。

### 新たな製品の研究開発に挑む

最近の市場に目を向けると、バブル崩壊後は作り直すよりもメンテナンス重視、加えて、ものづくりや食品などの産業では、品質管理への関心が高まっており、非破壊検査技術の必要性が高まっている。当社の業況も過去のピーク時と同程度まで回復しつつあり、利益率も改善している。これは、アレイ探触子の需要があげられる。つまり、付加価値のある製品の販売拡大にある。顧客の要望に対応した製品など、当社の強みである熟練技術に対し、顧客ニーズが根強いと感じている。

コロナ禍という現状を踏まえ、非破壊検査における超音波探傷の市場規模を考慮すると、当面の業容は現状維持、もしくは微増と考えている。経常利益を向上するためにも、残業削減・不良削減・在庫削減を全社一丸となり進めていく。

### オンリーワンの企業を目指す

10年後を見据えた考え方としては、社内の人員および設備の充実をさらに図っていく。加えて、品質を一層高め、『クレームゼロ』の製品を納めたい。顧客の要望を真摯に受け止め、満足して頂ける製品を作れば必ず売れると考えている。良い製品を作り続けることで、当社の良さは自ずと広がっていくと期待している。また、人材育成も重要だ。一人前に育つには、5年から10年という時間が必要であるほか、次代の後継者育成に着手していく。

今後、新しい製品の研究開発にチャレンジし、ナンバーワンから「オンリーワン」の会社となる。さらには、様々な経験とトライができるよう、若手社員に自由な発想で業務に取り組んでいける環境づくりを目指す。創立60周年を迎えた今、新たな製品、そして魅力ある製品の研究開発に挑んでいく。